

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 折尾東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

| 主として「知識」に関する問題(A) | 主として「活用」に関する問題(B) |
|--|-------------------------------|
| ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 | ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 |
| ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 | ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

3. 教科に関する調査結果の概要

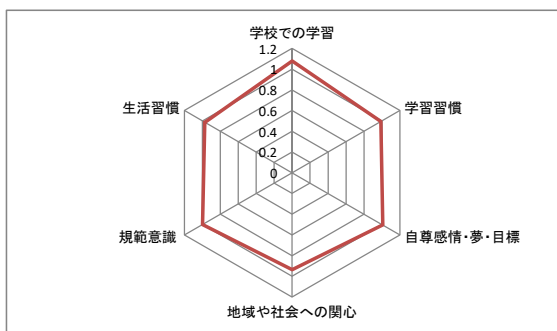
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

| 本年度の結果 | 国語A | | 国語B | | 算数A | | 算数B | | 理科 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 8.5 | 71 | 4.3 | 54 | 8.6 | 61 | 5.0 | 50 | 9.6 | 60 |
| 全国 | 8.5 | 71 | 4.4 | 55 | 8.9 | 64 | 5.1 | 52 | 9.6 | 60 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|-----|-------------|---|-----------------------|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均を下回っているものの、昨年度より平均正答率は全国平均に近づいている。 ・登場人物の心情について情景描写を基に捉える力は伸びてきている。 ・言語についての知識・理解・技能の力は、語彙力に課題があり、正答率が低くなっている。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よってきた問題 | ・登場人物の心情について情景描写を基に捉える問題の正答率は高かった。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題は、正答率が低かった。普段からの指導が必要である。 | |
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | ・書く能力の問題は苦手としている本校の子どもたちであるが、伝え合いの練習をしてきた成果が出てきたのか、文章の構成の効果には気づくことができていた。これからも、授業の中に、書く活動を取り入れて力を伸ばしていきたい。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よってきた問題 | ・目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えることができるかをみる問題は正答率が全国平均を上回っていた。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことができるかをみる問題の正答率は低かった。 | |
| 算数A | 全体的な傾向や特徴など | ・全体的に全国平均を下回っており、続けて努力が必要である。 ・分度器の使い方については、理解しており、基礎的基本的内容が定着してきている。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よってきた問題 | ・円周率の意味について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が高かった。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・授業で子どもたちがつまづきやすい、単位量あたりの大きさを求める問題は正答率が低かった。 | |
| 算数B | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均を下回っており、苦手としている記述式の問題については、無回答率が高いことが課題として残った。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よってきた問題 | ・分配法則を用いた式に表現することができるかどうかをみる問題については全国・県を上回る正答率を得られた。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する問題は正答率が低かった。 | |
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | ・科学的な思考・表現に関する問題は苦手としている傾向にある。実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにすることに課題が見られる。授業の中で、結果などを整理するノート作り工夫をしていきたい。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よってきた問題 | ・乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できるかをみる問題は、普段の生活体験と重なるためか、正答率が高かった。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できるかをみる問題は、正答率が低かった。 | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析 | |
|---|--|
| ・「自分には、よいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問では 肯定的回答が高く、自己肯定感・自尊感情をもつことができていると考えられる。 | |
| ・「授業では課題に対して自ら考え自分から取り組んでいたと思いますか」という質問では全国平均も上回り、昨年よりも肯定的回答が高くなっている。 | |
| ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた児童が今年も全国平均も大きく上回っていた。話し合うことの楽しさや良さを実感させる授業に、取り組んでいる成果がでている。 | |
| ・「朝食を毎日食べていますか」との質問には、肯定的回答が全国平均を大きく下回っていた。 | |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・日々の授業の中で、考え、表現する(書く)活動を確保するように努める。
- ・「授業改善シート」を効果的に活用し、「1単位時間の中に『話し合う活動』と『書く活動』」を意識するようしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習について、「折戻っ子スタンダード家庭編」に示されている、低学年15分、中学年30分、高学年45分以上の学習時間の習慣が定着するように、学年通信・学校だより等で引き続き家庭に周知していく。
- ・毎日朝食を食べる習慣から定着させていき、生活のリズムを整えていく。ゲームをする時間、スマホなどでネットに触れる時間が全国平均よりも多いため、保護者に懇談会や学校通信等で周知していく。